

# 村長村政報告

（紙面の都合で、内容は省略してあります。）

## 総合防災訓練

今年6月下旬からの長雨、低温、日照不足等の異常気象が続き、農作物等への影響が心配されています。

そんな中、9月7日草野小学校グラウンドをメイン会場として、飯館村総合防災訓練を実施しました。小雨の天候の中、約900人の参加があり、大変意義深く且つ重要なことでした。訓練は、滞りなく実施され、「極めて良好」に訓練が終了できました。



▲防災訓練のようす

## 市町村合併

村を含む相馬地方は、先の7月11日に相馬地方任意合併協議会が解散したことを受け、8月22日に原町市、鹿島町、飯館村の3首長が会談し、3市町村による任意合併協議会の設置を確認しました。

12月法定協議会移行を目標に9月中旬に任意合併協議会が発足しました。なお、任意協議会は議会から2人、住民代表4人など各市町村8人で構成し、4回程度の会議を予定しており、新しい市の構想等も含め、11月末をめどにあらゆる方向から検討を加える事としていきます。村としては、法定協議会への移行を決定する際には、なんらかの形で村民の意向を確認したいと考えています。

## 第5次総計画策定

現在6専門部会で、会議を進めており、7月3日には第2回の中間報告フォーラムを開催しました。10月10日には第3回中間報告フォーラムを行い、12月中には基本計画をまとめたいと考えています。

「やるきつながりプラン」は、20行政区においてそれぞれ計画づくりに取り組んでいただいています。「ちいきくらしあっぷプラン」は11月末までに、「つながりプラン」は2月末までにまとめたいただき、来年3月中には「基本計画」と地域計画である「やるきつながりプラン」をまとめたいと考えています。

8月28日には、第2回村振興計画審議会を開催、本計画の基本理念「まできライフ」を含めた基本的内容等について、了解をいただきました。

## 企業誘致

旧飯館産業跡を保原町に本社がある株式会社ヤマと賃貸契約する運びとなりました。12月中旬の操業開始をめどに、9月から保原町本社で45人の研修を始める計画とのことです。当初6人前後で操業開始をし、将来は30人の雇用を予定しているようです。エヌ・イー・ティに次いで誘致工場となりました。

（記事24ページ）

## 夏まつり

台風の影響で8月9日から10日に順延しての開催となりましたが、当日は村内外から約2、500人の来場者がありました。内容も、飯館牛の丸焼きコーナーを実施しながら、各行政区参加の「ふるさと自慢コーナー」、行政区対抗イベントの「風船ヒップ割り大会」、更に、「いいたて盆歌」

## 農業

今年の夏は、大冷害と重なった平成5年と同様、6月下旬から低温と日照時間の少ない日が続きました。これにより大きな被害の恐れがあったため、8月1日に関係機関、団体による異常気象緊急連絡会議を開催し、ました。

この中で「いもち病」の対策費として、農薬購入に対して10ヶ当たり250円の助成と各農作物の技術対策等について各農家に周知してきました。



▲たくさんの人でにぎわった夏まつり

なお、JAそうまにおいても、10ヶ当たり200円の助成をすることになったとの報告を受けています。

しかし、その後気象が回復せず、この緊急事態に対処するため、8月25日に「飯館村異常気象対策本部」を設置しました。

農業が基幹産業の本村にとつて、農作物への被害は、農家経済のみならず村内の地域経済にも大変深刻な影響があるので、農家生活を守り再生産の体制を築くため、この対策本部で支援策を協議しながら対策を実施してきましたと考えています。

この異常気象下での作物別生育現況は、水稲の8月15日現在の作柄は、県平均は「不良」、浜通りは指数90以下の「著しい不良」です。不作が確実となっており、病害対策を徹底し被害を最小限に抑えたい考えです。

野菜関係は、これも長



▲不作が心配される水田

雨と低温により特に露地物の栽培が多い「インゲン」「カボチャ」等に影響が出ています。これは、生育遅れにより東北北部、北海道との産地競争にさらされ、販売単価が昨年の半値近くの作物もあり、大きな痛手となりました。花卉の「トルコギキョウ」「リンドウ」についても、低温により、お盆向け出荷の品種に開花が遅れ、お盆に間に合わなかったため、販売額が減少しています。

## 新規作物

「たちの芽」については、7月初めに4戸の選定農家に苗を配付しました。「ふき」については、市販の栽培用苗の手配が

つきませんでした。数年前に宮内集落で種苗を購入し、現在栽培されている方から譲って頂き配布しています。「銀杏」については、大粒で新種登録されたばかりの「喜平」と言う苗の手配が済んでいますので、来春には定植できるものと思います。8月下旬に栽培予定農家の代表3人、JA、役場の担当者が、銀杏栽培の先進地である新潟県で研修をしています。更に、村での栽培技術について、銀杏栽培で新潟県の地域興しマイスターの方の指導を受けることになっています。

## 畜産

子牛価格、枝肉価格とも高値で取引されており、本宮セリ市場での子牛取引では、4月から8月までの1頭平均は42万4、927円と昨年同期から6万7、634円高い取引となっています。

## 振興公社

8月29日に理事会が開催され、15年度の7月までの運営状況について報告されました。

肥育事業については、枝肉の販売価格が1頭当たり平均87万2千942円と今までにない高値で取引されており、上物率も68・9%、特に雌牛については90%以上の上物率となっています。

受精卵移植事業については、今年度は移植件数84頭、採卵回数37回、受胎率は57・6%と今までにない高い受胎の状況になっています。

## 活性化施設

ステーキハウスにおいては、BSEの影響もなくなりお客は少しずつ戻ってきていることが伺われ、7月の売上増に現れてきています。

一方、きこりについては、増築工事のため約2

## 愛の句碑づくり事業

ヶ月休業を強いられましたが、再開後1ヶ月の売上は、1千万円を超え大幅に伸びています。



▲除幕式の様子 (記事23ページ)

7月1日から募集が始まり、8月末日までに、全国各地から約1、400句が寄せられています。

8月11日には、7月末までに応募のあった中から抽選で25人に特産のトルコギキョウの花束を贈りました。村特産の花弁類の宣伝にも少なからず貢献できたと思います。

加えて、昨年度入選句の句碑のお披露目である



▲農業体験を行う学生たち

「愛の園遊会」を7月12日に、選者黛まどかさんをお迎えして、あいの沢現地並びに新装となった「きこり新館」を会場に開催。熊本県をはじめ、村内外の多くの皆さんに出席をいただき、村の新たなイメージアップにつながったと思われまます。

## グリーン・ツーリズム

8月22日、村づくりをご指導いただいている日大系長先生ゼミの学生22人が来村し、村内7カ所の農家等に分かれて農業体験が行われました。

「宿泊はきこり、体験は村内農家」というパターン実現のために、モニターの受け入れをし、今後の方策を勉強しました。

## 福祉

第10回健康福祉まつりを7月20日、いいいてホームをメイン会場におよそ700人の来場者のもと開催しました。当日は、多彩な行事を盛り込み盛況のうちに終了することができました。

なお、この祭典は今年で10回目の節目を迎え、また当初の目的も一定程度達成したことから今回をもって終了とし、今後は新たな事業の展開を図るべく検討したいと考えています。

次に「健康づくり計画」については、7月22日に健康づくり推進協議会委員10人を委嘱し、第1回目の会議を開催しました。これは、国の「健康日本21」計画を受けて策定するもので、村の現状・課題等を十分分析し、また村民各層の声を取り入れながら来年3月をめどに策定を考えています。



▲福祉まつりのようす

## 住基台帳 ネットワークシステム

第2次サービスが、8月25日にスタートし、新たに住民票の写しの広域交付、転入転出手続の簡素化、希望者への住基基本台帳カードの交付が実施されました。

この運用にあたっては、責任体制の確立と情報の保護対策に配慮し、不正使用や個人情報漏れることのないよう努めます。

## 飯樋小建設

天候不順の影響もあり、全体の工事進捗状況は予定より若干遅れています。現在は、基礎工事が終わりに上屋の鉄筋・コンクリート工事の段階になっています。

## 補習授業

高校受験を控えた中学3年生の学力向上を図るため、飯館中において、夏休み期間中補習授業が行われました。これは飯館中学校教員らによる自主的な取り組みであり、高校受験に大きな成果があるものと考えています。

## 社会教育

海洋アドベンチャースクールは、7月28日から8月1日までの4泊5日の日程で実施しました。



▲いいいて大自然塾

村内3つの小学校6年生73名の他、ボランティアスタッフなど合わせて合計87人で、北海道倶知安町での交流を深めてきました。

大自然塾は、村内の4年生32名の参加により、2泊3日で、あいの沢をベースに行いました。

村の地域の特性を生かした、様々な自然体験事業を通して、子供たちの健全育成・生きる力の増進が図られました。

また、この事業に飯館分校生ジュニアリーダー10名の参加協力があり、子供たちと一緒に活動を支援していただき、若者たちの逞しい成長の一助になったと考えています。